

飯田市に

新名所がで

きた。近代

日本画の画

聖と、市民

言 日

が等しく誇りとしてきた。近代日本画の画聖と、市民ある仲ノ町に「春草生誕地公園」が29日オープンした。同町は飯田大火で類焼が免れ、江戸時代の面影を僅かながらに残していたが、近年時代の波に巻き込まれ、次第に姿を消していた。生誕地付近も同様で、寂れるまま。案内板だけだった▼この現実を地元有志が憂い、公園にして春草のシンボルにしようと発議、飯田商議所などに呼びかけ「春草誕生の地」整備を願う市民の会」を作り、募金活動を展開した。これに呼応して市民はじめ企業や首都圏在住の当地出身者などから2100万円が集まった。300万円は公園維持管理に当る。「春草公園を愛する会」に寄託のほか、全て事業費8100万円にと市へ寄付した▼公園は、1040平方メートルで道路から伺うと、僚友横山大観が揮毫した生誕地の石碑が目立つ。両脇の門から春草生家の縁側を模したベンチが目前に控え、奥行きがあり、どこか明治を醸している。飯田美博館の協賛展「創造の源泉、春草のスケッチ」とともに、春草が偲ばれる。本社創刊50周年の記念事業として代表作「菊慈童」購入は、市民からの募金が切っ掛けで、いま同館の「宝」になっているのは感慨深い。春草は市民の心にある。